

環境と経済の好循環ビジョン骨子案
(環境と経済の好循環専門委員会取りまとめ報告骨子案)

1. はじめに

(1) 今回の検討に至る経緯・基本的考え方

環境と経済活動に関する懇談会報告から基本的考え方等を抜粋する。

「環境を良くすることが経済を発展させ、経済が活性化することによって環境も良くなっていく関係を築いていくことが重要である。」

(2) ビジョンの策定の必要性

環境と経済活動に関する懇談会報告からビジョンの策定の必要性等を抜粋する。

「国民、企業、行政が一体となって実現していくため、明確でわかりやすい将来像(ビジョン)を提示する。」

2. 日本全体が目指す方向と課題

(1) 暮らしを彩る環境のわざ

日本の環境技術が、日本のみならず世界の環境保全に貢献。環境ビジネスの発展が新しい雇用を創出。

例：消費電力の少ない冷蔵庫、液晶テレビ、ハイブリット車、建物の断熱化、水素エネルギー社会の実現、大型トラック貨物輸送から鉄道、海運へモーダルシフトが進展、環境にやさしい製品を支える素材
世界最先端の環境技術を生み出す環境にやさしい日本の消費者

指標：環境効率性 = GDP / CO₂排出量(目標：2010年)
環境配慮型製品を積極的に購入する人の割合(目標：2025年)

課題：環境配慮型製品・サービスの需要喚起
企業・消費者・地域間での情報交流

(2) 「もったいない」が生み出す資源

「ごみ」を役に立つ資源と変えることにより、世界一の資源生産性を実現。企業、NPO、地方公共団体等によるパートナーシップ社会がリサイクル社会を支える。

例：使用済みペットボトルの再生(ボトル to ボトル、ボトル to 繊維)

使用済みプラスチックの高炉還元材としての利用、廃タイヤなどの
エコセメント事業
再生製品を進んで購入する消費者

指標：循環型社会形成推進基本計画の目標（目標：2010年）
環境保全活動に参加する人の割合（目標：2025年）

課題：リサイクル商品の需要喚起、
活力あるパートナーシップ社会の確立

（3）自然がはぐくむ心と力

人々がエコツーリズム等で自然とふれあうことによって、心のはぐくまれ、いやされる。太陽光発電、風力発電等により、多くの人々が自然エネルギーの生産者になる。

例：エコツーリズムによる環境教育効果
自然エネルギーの活用が一般化

指標：年に、10日以上を自然の中で過ごす人の割合（案1）
余暇に自然とふれあう人の割合（案2）
（目標：2025年）

課題：エコツーリズムの振興、自然エネルギーの活用

総合指標：幅広い意味での環境関連産業の市場規模・雇用人数
（目標：2025年）

3．環境と経済の好循環が実現した社会の将来像（2025年）

2．で示した方向性が実現した理想の姿を描く。国民、企業、地方公共団体等がより身近で具体的に環境と経済の好循環をイメージしてもらえる内容とする。

（1）自然の恵みが人を呼ぶ里

エコツーリズムの推進によるガイドや宿泊施設の雇用増、地域の環境ブランド化による地元産品の売り上げ増加等の効果が生まれる。住民は自然エネルギーの活用や自然環境保護に取り組んでいる。

（2）ものづくりのわざが循環をつくる街

環境配慮型製品の製造やリサイクル事業により地域での雇用が生まれる。住民は、環境に配慮した製品を積極的に購入したり、ゴミの資源化に熱心に取り組んでいる。

(3) 環境の心で生まれ変わる都会

環境関連の新しい技術や流通・サービス、環境に配慮した金融業等により地域が活性化している。住民は、地域のリサイクル活動や環境教育に参加し、長期休暇を自然と触れあって過ごしている。

(4) 環境が豊かさを招く世界と日本

日本で生み出された技術やライフスタイルが世界へも影響を及ぼすことにより、環境と経済の好循環が、日本のみならず世界の環境保全と豊かな暮らしにつながる。例えば、太陽光発電が途上国を含め世界的に普及していく。

具体的な個人や家庭の姿を例にして描くことにより、世代ごとの意識や生活なども示すことができるか？

(参考) 2 0 2 5 年は、	団塊の世代	7 5 才前後
	団塊ジュニア	5 0 才前後
	今の中高生	3 5 才前後
	今年生まれた人	2 0 才前後

4 . おわりに

平成 1 7 年度を目途に見直しが行われる次期環境基本計画において、政府一体となって環境と経済の好循環の実現へ向けた具体的な施策を盛り込む必要がある旨を提言する。